

草狂ひ

わたくしは 草
千切れ 飛ぶ

山肌に行く時 鉄分の赤を感じ
松の実にぶつかり 身をくねらせ さからはず 逃げる
わたくしは まつしぐらに 空に向ふ
風であり 緑色の線條 わたくし 千切れたわたくし

自分が廻り 自分を伸ばし 自分が飛び
午前十一時に吹く二度目の風
山のふちどられた金色と 山のへこんだ所の木のゆれてゐるのと
木は 山は 眼下に過ぎ わたくしの興奮
風であり 内面からの力であり 真昼であり
自己の目的に向つて飛ぶ
上に 上に 嘘のやうに上に上に わたくしは
自分を離れ 上に 上に
いつもわたくしを眠らせなかつた小さい滝
流れる川の岩の上に横からそそぐ別の滝
あたたかい穴 近よる獣類 羽音をたててゐる虫
土の中の根のあたたかい穴
速い風の中ではじめるのだ
千切れ 去る 地に近づき 去り 波の上に
風は海を力いつばいもみつづけてゐる
わたくしは青いはてしない海のゆれてゐるのを跳める
あなた あなた 海は俺をつかまへようとして 白い手をのばす

わたくしは自己の目的に向つて飛ぶ
だが 恐ろしく感じた わたくしの根は俺を追ひかけてつかまへた
あなた あなた 海の白い手
木は遠いのに真近くのやうに音たててゆれてゐる
俺を横抱きにする雲
根と葉脈と厚みのあるわたくしの肉体
波でなく 風でなく 飛んでゐた俺と俺をつかまへた根
真昼の海の上でわたくしをとどめたもの
わたくしは草 はね飛ばす光 強い草
空間にかけた緑 ふたたび草の橋